



青森農研フラッシュ

研究成果

(地独) 青森県産業技術センター・農林部門

高密度播種苗栽培における側条施薬による水稻病害虫の防除法

－葉いもち、イネミズゾウムシに対する防除効果－

農林総合研究所

高密度播種苗栽培は育苗箱の使用枚数を削減できる技術ですが、従来の箱施用（50g/箱）では10a当たりの投下薬量も減少してしまうため、防除効果が低下する懸念がありました。そこで、移植時に薬剤を側条施用する防除方法を検討しました。

防除効果 および 防除方法

- ◆ 高密度播種苗栽培での育苗箱施用（50g/箱）は、葉いもちの発生が多い場合、防除効果が劣る傾向が見られました。高密度播種苗栽培では育苗箱施用を避けましょう。
- ◆ 田植機に装着する移植同時側条施薬機を用い、薬剤を10a当たり1kg側条施用することで、葉いもちおよびイネミズゾウムシ幼虫に対して、十分な防除効果が認められました。
- ◆ イネミズゾウムシの成虫には防除効果が低いことが確認されました。
- ◆ 移植同時側条施薬機は、事前に薬剤の吐出量を確認、調整してから使用しましょう。

期待される効果

- ◆ 薬剤を移植同時に施薬することで、省力化になります。
- ◆ 一定量の薬剤を必要な分だけ施用できるので、効果の安定化及び低コスト化になります。

注意事項など

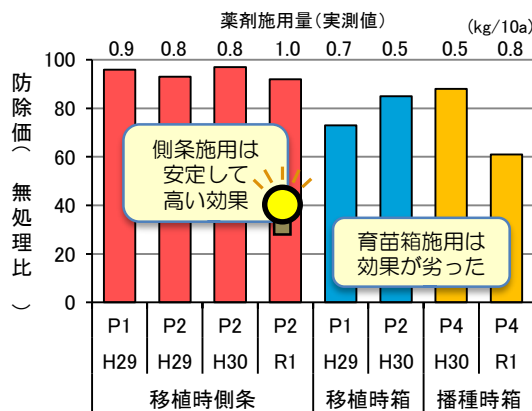
- ◆ 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して使用者の責任のもとに使用しましょう。

「農薬情報」

(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

「農薬登録情報提供システム」

(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)



プロベナゾール剤の葉いもちに対する各施用法の効果

(注) P1～4：プロベナゾールを含む箱施用剤
移植時処理、播種時処理は50g/箱施用した。

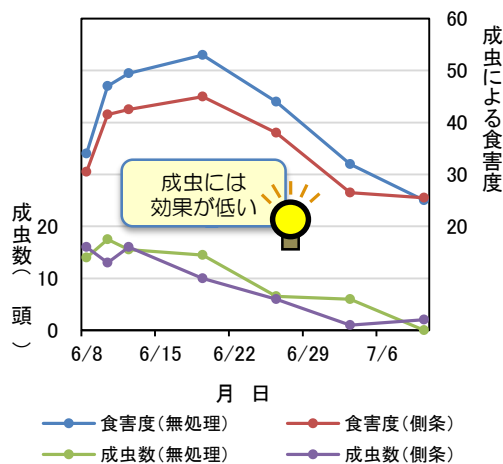
クロラントリニプロール剤の

イネミズゾウムシ（幼虫）に対する効果

供試薬剤名	10株当たりの幼虫数 (7/15)					同左指数	薬害
	若齢	中齢	老齢	土菌	合計		
側条施用区 (クロラントリニプロール剤)	0	0	0.5	0	0.5	1.5	—
無処理区	6.5	10	16.5	0	33	100	

(注) 播種量：250g/箱、移植：R元年5月22日
側条施用：薬量0.99kg/10a

幼虫には
効果が高い



クロラントリニプロール剤の

イネミズゾウムシ（成虫）に対する効果

(注) 成虫数：25株当たり頭数

お問い合わせ

農林総合研究所 病虫部 (TEL 0172-52-4314)